

高知県長期漁海況予報

平成17年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成17年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成17年1月から6月を予測期間とした「平成16年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

概 要

海況

黒潮：本州南岸の黒潮は期間を通してA型流路で推移し、四国沖では3～4月に一時離岸する。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

漁況

マイワシ： 低調であった前年を上回る

カタクチイワシ： 前年を下回る

ウルメイワシ： 前年を上回る

マアジ： 前年並みから上回る

サバ類： ゴマサバは前年を上回る。マサバは低水準

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海況

【海況の経過（平成16年7月～12月）】

1. 黒潮

四国沖を東進中の小蛇行は、7月下旬にその西端が足摺岬沖を通過し、8月上旬には室戸岬沖を通過しました。

これにともない、足摺岬沖では7月上、中旬は「著しく離岸」、7月中旬から7月下旬に「かなり離岸」から「接岸」へ移行しました。室戸岬沖では7月上旬から下旬は「著しく離岸」し、8月上旬には「やや離岸」となりました。

その後は、足摺岬沖では「接岸」～「やや離岸」、室戸岬沖では「やや離岸」で推移しました。

表1 足摺・室戸両岬南沖黒潮流軸位置階級区分

階級	範囲(マイル)
接岸	< 25
やや離岸	25、< 45
かなり離岸	45、< 65
著しく離岸	65

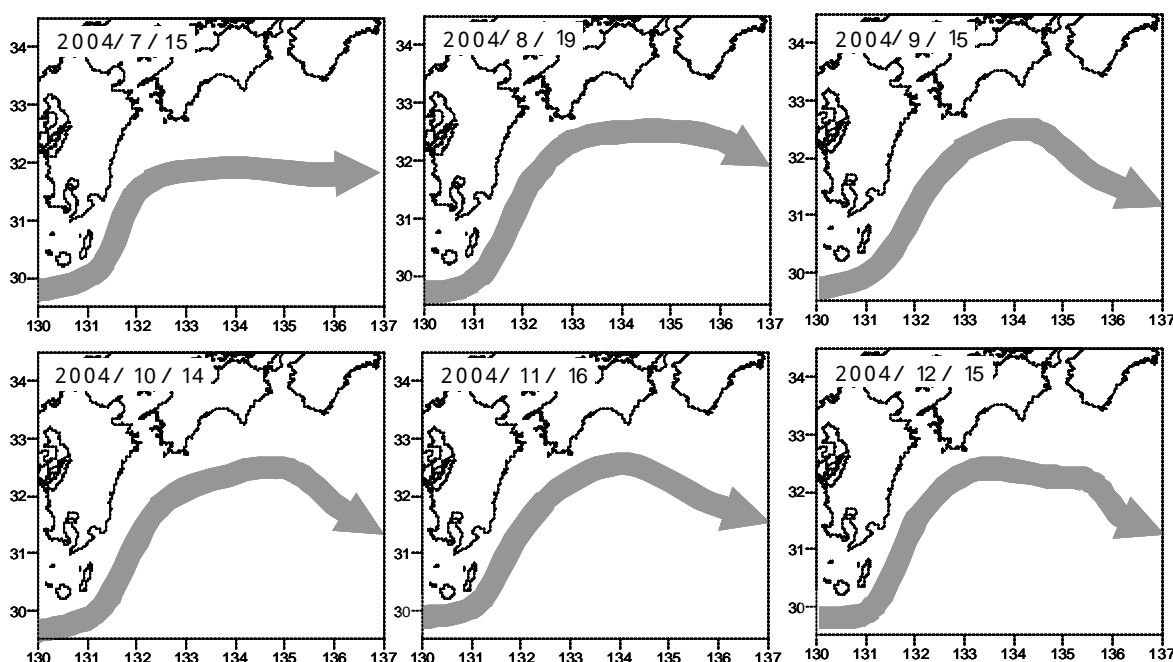


図1 NOA衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

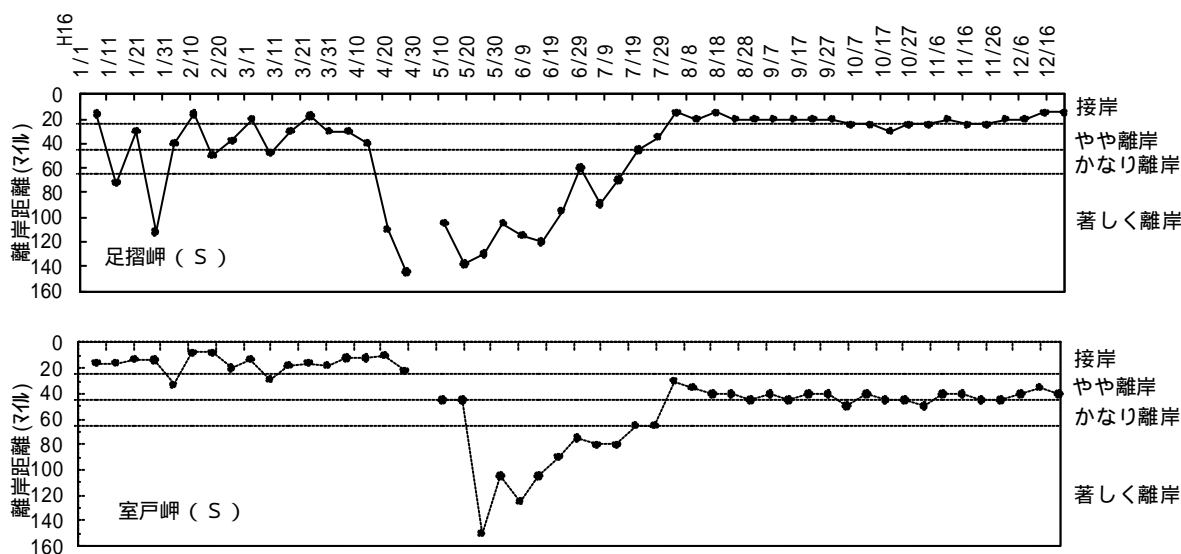


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

2. 沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、前半は高め傾向で推移しましたが、後半には平年並みとなりました。

月別に見ると、7月は0、50mで「かなり高め」、100、200mで「やや高め」、8月は0、200mで「やや高め」、50、100mで「著しく高め」で推移しました。9月は0、100mで「平年並み」、50mで「かなり高め」、200mで「やや高め」、10月は0、100mで「やや高め」、50mで「かなり高め」、200mで「平年並み」、11月は0、50mで「やや高め」、100、200mで「平年並み」、12月は50mで「やや高め」のほかは、「平年並み」で推移しました

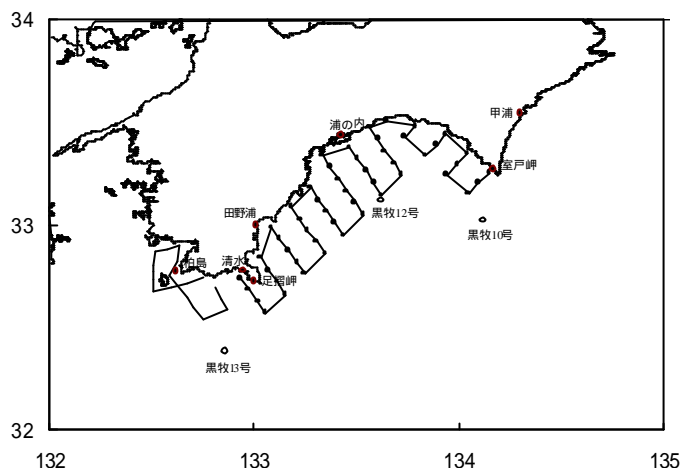


図3 土佐湾観測点

表 2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成16年7月	++	++	+	+
平成16年8月	+	+++	+++	+
平成16年9月	-+	++	-+	+
平成16年10月	+	++	+	+/-
平成16年11月	+	+	+/-	+/-
平成16年12月	+/-	+	+/-	-+

表 3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+/-	平年並(+基調)	0.0~0.6
---	著しく低め	-2.2 以下
--	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
-+	平年並(-基調)	0.0~-0.6

1. 特異現象

海況

- ・8月の土佐湾平均水温において、50mは過去3番目、100mは過去4番目の高水温（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・足摺岬周辺のゴマサバ漁場では、7月下旬～8月に水揚げされたゴマサバの体長組成が小型魚に偏り、40cm以上の大型個体が減少しました。これは、立縄漁場に0歳魚（尾叉長21～27cm）が大量に来遊し、大型魚の漁獲を妨げたためです。
芸東（室戸岬周辺）海域の大型定置網でも8月に200g以下の0才魚が大量に入網しました。このようなゴマサバ小型魚の大量来遊は1999年以來のことで、両岬周辺海域で目立ちました。また、足摺岬沖合では、漁業者は小型魚を避けて沖合の漁場で操業したため、7、8月の漁獲量が減少しました。
- ・上半期から引き続き、メジカが不漁（7～10月の漁獲量が1986年以降最低）で推移しました。
- ・県下全域でタチウオが好漁でした。この傾向は紀伊水道、豊後水道域でも同様です。

【今後の見通し（平成17年1～6月）】

1. 黒潮

12月現在、A型流路（大蛇行流路）の黒潮は、期間中もA型が継続します。

四国沖では、足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「やや離岸」の状態が継続しますが、2月前半に九州南東沖で小蛇行が形成され、その東進にともない3～4月に足摺岬沖でも一時離岸します。

（根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

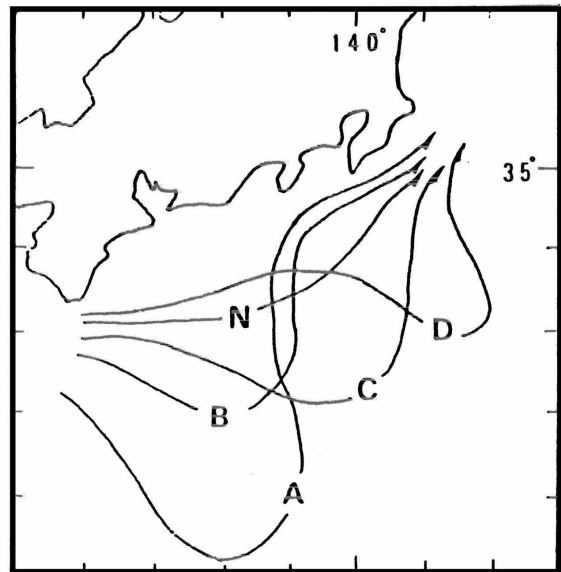


図3 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2. 沿岸の水温

- 土佐湾 : 「平年並み」から「高め」で推移する。
- 豊後水道東部海域 : 「平年並み」から「高め」で推移する。
- 紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」から「やや低め」で推移する。

（根拠）

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」（12月22日発表、予報期間1～3月）によると、期間中の平均気温は高い。
- ・類似年1975～1976年の傾向
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。

漁 況

Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1575 トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します。）で、前年比 160%、平年（以下、平年とは平成 5 年から平成 14 年の 10 年間の平均値を示します。）比 162%と好調でした。まき網漁獲物の体長測定結果では、全てがゴマサバで、魚体は平成 16 年生まれ（尾叉長 20～27cm）及び平成 15 年生まれ（尾叉長 28～33cm）が主体でした。
- (2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による漁獲量は 246 トンで、低調であった前年比 267%、平年比 113%とまずまずの漁模様でした。

定置網漁獲物の体長測定及び芸東地区 3 漁場（椎名、高岡、加領郷）の定置網入網調査等の結果では、95%以上がゴマサバで、平成 16 年上半期は 600 g /尾以上の大型高齡魚が漁獲されていましたが、下半期にはこれらは見られなくなり、平成 15 年、16 年生まれ（400g/尾以下）が主体の漁模様となりました。特に平成 16 年生まれ（300g/尾以下）は、8 月を中心に大量に入網しました。

- (3)釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 漁協合計）による漁獲量は 441 トンで、前年比 60%、平年比 65%と低調でした。

下半期にはマサバの混獲がなくゴマサバのみでした。土佐清水市漁協での立縄漁獲物の体長測定結果では、ゴマサバの魚体は 30～45cm の範囲でした。7 月下旬～8 月は小型魚が多くなり、40cm 以上の大型個体が減少しました。これは、立縄漁場に平成 16 年生まれ(21～27cm)が大量に来遊し、大型魚の漁獲を妨げたためと考えられます。このような現象は 1999 年以来のことです。また、漁業者は小型魚をさけて遠い漁場での操業となったことで、7、8 月の漁獲量が減少し、下半期の漁獲量減少に影響したものと推測されます。

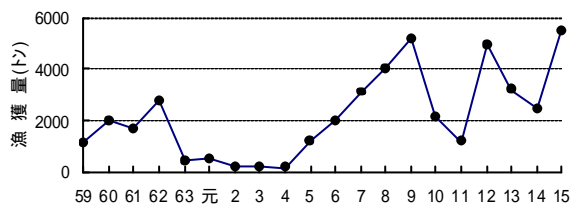


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

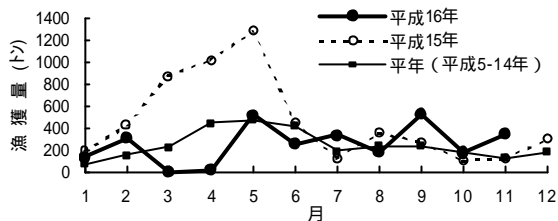


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

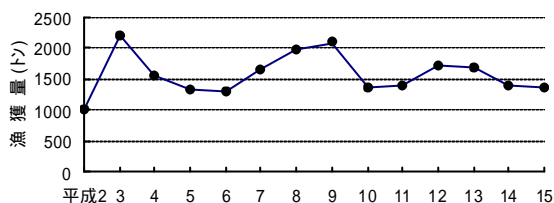


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

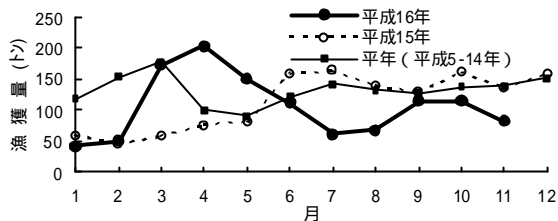


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

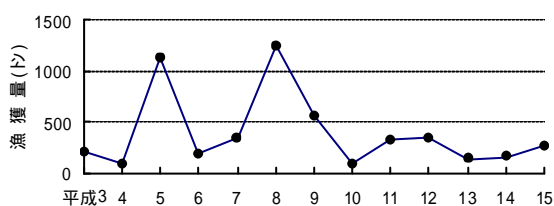


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

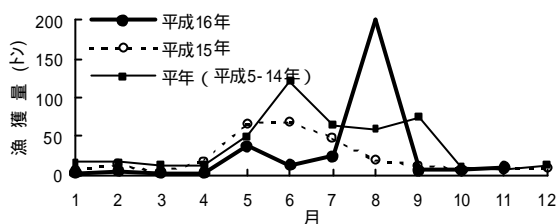


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成16年7～11月の総漁獲量は2152トンで、前年比67%、平年比122%（平成11年～平成15年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では南部を中心にゴマサバ主体の漁場が形成され、総漁獲量は2241トンと前年（2795トン）を下回り近年（1965トン、平成11年～平成15年の平均値）をやや上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による漁獲量はゴマサバ主体に1440トンで、前年比77%、平年比46%でした。熊野灘定置網はゴマサバ0才魚主体の低調な漁模様となりました。

【漁況予測（平成17年1～6月）】

(1) 漁獲対象：平成16年生まれ及び平成15年生まれ主体。平成14年生まれ以上はわずか。

(2) 来遊水準：

・宿毛湾周辺海域では、ゴマサバは平成16年生まれ及び平成15年生まれ主体の来遊で、不調であった前年を上回り、平年並と思われる。なお、海況条件が良好であれば、土佐湾西部海域に大量に滞留していると思われる平成16年生まれの来遊が見込まれ、平年以上の好漁となる可能性も考えられます。

マサバは低水準とされます。

・土佐湾以東の海域では、ゴマサバ2才魚(平成15年生まれ)以上主体の来遊で、2才魚の来遊量があまり見込まれないので、不漁であった前年並で、平年を下回るとされます。3才魚(2002年級群)以上の来遊は少ないと考えられます。

マサバは低水準とされます。

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向でしたが、平成16年生まれは太平洋岸全域で高い来遊水準であると予想されています。これらは、四国沖合海域にも多く滞留しているものと思われ、宿毛湾海域では沖合からの暖水波及により、多くが輸送される可能性があります。一方、平成15年生まれはこれまでの調査や漁況経過から資源水準は低いと考えられており、あまり来遊を期待できません。また、平成14年以前生まれの残存資源量は多いとはいえ、多くを期待できない状況です。

マサバ：マサバ太平洋系群の資源水準は低位、動向は減少傾向にあると考えられています。伊豆諸島周辺海域以西では、来遊するサバ類のうちマサバの割合は低く、高知県海域も近年は同様の傾向です。平成16年春季には、沿岸に来遊するサバ類稚魚に占めるマサバの割合が高くなりましたが、資源の増減にどの程度影響するかは全くの未知数です。したがってマサバの来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的でしょう。

II マアジ

【漁況経過(平成16年7月～平成16年11月)】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1431トンで、前年比328%、平年180%と好調でした。銘柄別にみると、150g/尾以上の「アジ」は178トンで、前年比88%、平年73%とやや不調な漁模様でしたが、150g未満/尾の「ゼンゴ」は1253トンで、前年比540%、平年227%と好調で全体の漁獲量を大きく押し上げました。

魚体は、まき網漁獲物の体長測定結果および銘柄別漁獲量から、7月以降は平成16年生まれ(0才魚 尾叉長 10～17cm)主体に1才魚以上(18～27cm)が混獲されたと考えられます。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は93トンで、前年比49%、平年68%と低調でした。

魚体は、芸東地区 3 漁場漁協（椎名、三津、高岡）における定置網入網調査等の結果及び体長測定結果によると 100g 未満 / 尾が多かったことから、平成 16 年生まれが主体であったと考えられます。

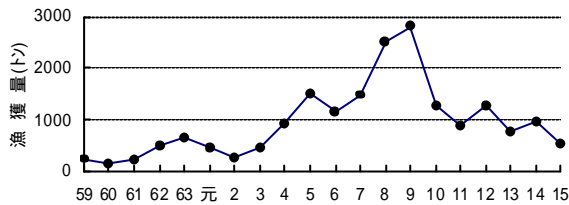


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

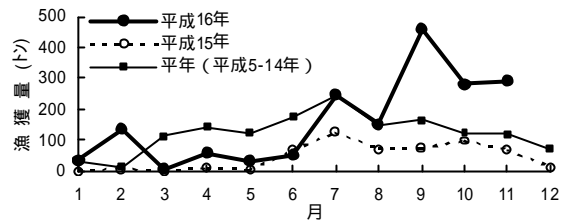


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

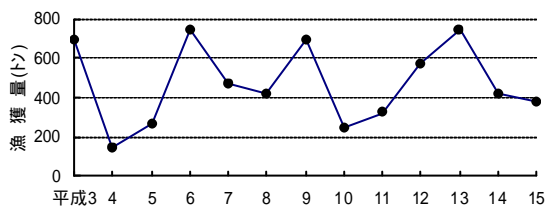


図 マアジ漁獲量の推移（窟津・加領郷・椎名：大型定置網）

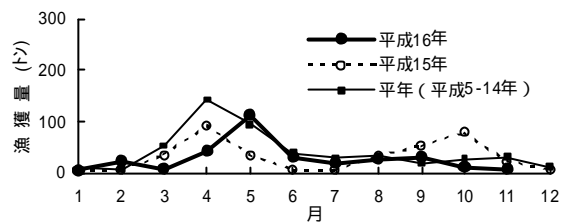


図 マアジ月別漁獲量の推移（窟津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の 3 港）による平成 16 年 7 ～ 11 月の総漁獲量は 4668 トンで、前年比 115%、平年比 170%（平成 11 年～平成 15 年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では中部、南部主体に漁場が形成され、総漁獲量は 4303 トンと前年（2861 トン）及び近年（1999 トン、平成 11 年～平成 15 年の平均値）を上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域 2 そうまき網による漁獲量は低調であった前年並みで、平年を下回り低水準でした（比井崎、御坊市、田辺 7 ～ 11 月計 1026 トン、対前年比 107%、対平年比 81%）

【漁況予測（平成 17 年 1～6 月）】

来遊量：

(1) 漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ）、1 才魚（平成 16 年生まれ）、2 才魚（平成 15 年生まれ）以上

(2) 来遊水準：

- ・宿毛湾周辺海域は平成 16 年生まれが主体となり、前年および平年を上回る来遊が見込まれます。
- ・土佐湾以東の海域では平成 17 年生まれ及び平成 16 年生まれ主体の来遊があります。2 才魚以上は少ないでしょう。全体では前年を上回る見込みです。

説明：

宿毛湾では、下半期の銘柄「ゼンゴ」漁獲量が多くなれば、翌年上半期の「ゼンゴ」の漁獲量も多くなる傾向があります。これは、下半期の「ゼンゴ」はその年生まれで、それが引き続き翌年の上半期の「ゼンゴ」の主体となるためです。平成 16 年下半期は、「ゼンゴ」が好調であったことから、宿毛湾周辺海域には平成 16 年生まれが主体となり、前年および平年を上回る来遊があると思われます。

- ・土佐湾以東の海域では通常 0 才魚及び 1 才魚主体に来遊があります。0 才魚（平成 17 年生まれ）は上半期後半に来遊するものと考えられますが、まだ産卵されておらず来遊水準を予測するのは困難です。1 才魚（平成 16 年生まれ）の資源水準は平年並と考えられていることから、当海域への来遊は前年を上回るものの、平年をやや下回ると考えられます。2 才魚以上は少ないでしょう。全体では前年を上回る見込みです。

マアジの 0、1 才魚の来遊は、海況条件と関係があります。従って、両海域ともに黒潮の離接岸による来遊量の変動が考えられます。

III マイワシ

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲は 964 トンで、前年（1 トン）を大きく上回り平年比 482% でした。
- (2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による漁獲量は 44 トンで、前年比 338%、平年比 72% でした。

魚体測定結果から、まき網、定置網ともに 0 才魚（平成 16 年生まれ）主体に 1 才魚（平成 15 年生まれ）も漁獲していたと考えられます。

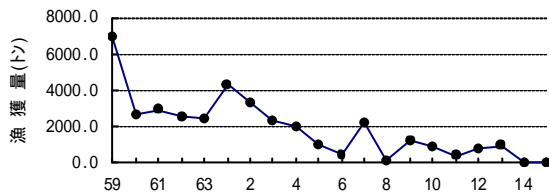


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

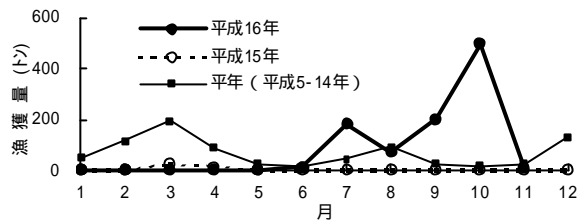


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

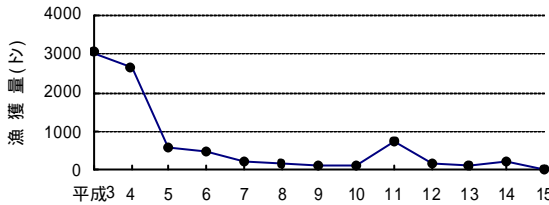


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

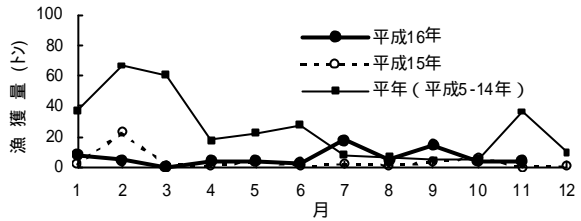


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）では9月に20kgの水揚げがあったのみでした。

愛媛県：豊後水道では南部に漁場が形成され、総漁獲量は750トンで前年(176トン)及び近年(134トン、平成11年～平成15年の平均値)を大きく上回りました。

和歌山県：串本漁協1そうまき網では7月に若干の漁獲がありましたが、以降は低調に推移しました(南部町、串本1そうまき網90トン、前年比58%、平年比(平成6年～平成15年)33%)。

【漁況予測(2005年1～6月)】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成16年生まれ)主体

(2) 来遊水準：低水準であった前年は上回りますが、散発的な来遊と思われます。

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は、平成7年から平成11年までは50万トンをこえて低水準ながら比較的安定していました。しかし平成12年から再び減少し、平成14年以降は約11万トンとキわめて低水準にあると推定されています。一方、平成16年生まれのマイワシは、土佐湾でシラスとして1～3月に多く漁獲された後、体長12～15cm前後で豊後水道南部～紀伊水道外域(高知県含む)と駿河湾、相模湾で比較的多く漁獲されました。この平成16年生まれの魚を主体として、今期は前年を上回る来遊量が期待されます。しかし、太平洋全体のマイワシ資源の水準はまだ回復していないことから、散発的な来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲は 215 トンで、前年（130 トン）を上回り平年（231 トン）並でした。銘柄別では幼魚の銘柄「ドロ」は 18 トンで前年（0 トン）を上回り平年（54 トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 197 トンと前年（130 トン）、平年（176 トン）を上回りました。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による漁獲量は 22 トンで前年（2 トン）、平年（11 トン）を上回りました。

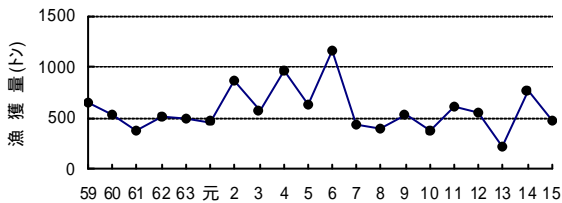


図 カタクチイワシ漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

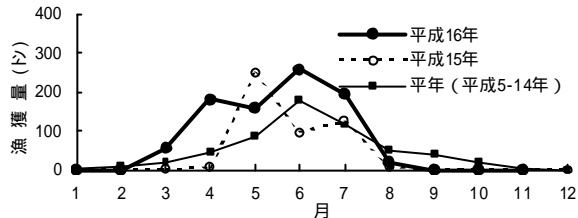


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

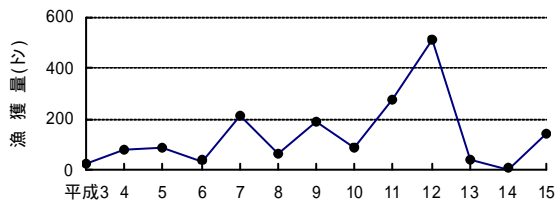


図 カタクチイワシ漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

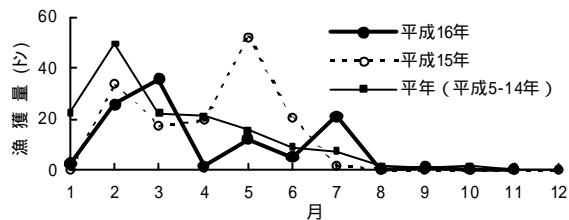


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成 16 年 7～11 月の総漁獲量は 1302 トンで、前年比 64%、平年比 44%（平成 11 年～平成 15 年の平均値）の低水準でした。

愛媛県：豊後水道では中部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は 2915 トンと前年（1401 トン）近年（1287 トン、平成 11 年～平成 15 年の平均値）を上回りました。

和歌山県：シラス以外の未成魚、成魚はほとんど漁獲対象にしています。

【漁況予測（平成 17 年 1～6 月）】

(1)漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ） 1 才魚（平成 16 年生まれ）。

(2)来遊水準：前年並みから前年を下回ると思われます。

説明：

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年の中では高く、動向は横ばい傾向にあります。しかし、平成 16 年生まれ群は、各地でシラスが不漁であったこと、秋に房総～北海道東部にほとんど出現していないこと等から、その水準が低い可能性があります。本県海域でも前年並みから前年をやや下回る来遊量になると考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 689 トンで、前年（427 トン）、平年（510 トン）を上回りました。
- (2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による漁獲量は 53 トンで前年（59 トン）をやや下回り、平年（91 トン）を下回りました。
- (3)宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は 9 トンで前年（24 トン）、平年（16 トン）を下回りました。

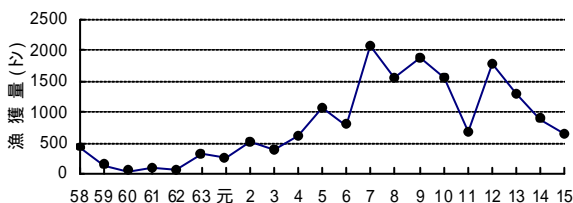


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

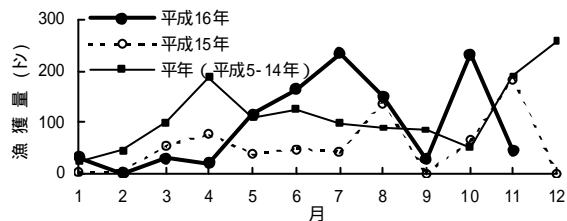


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

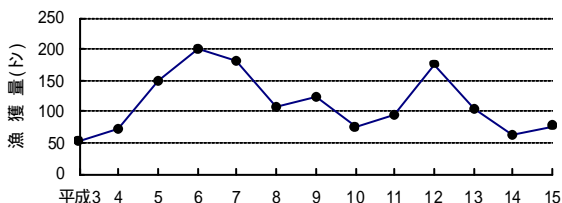


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

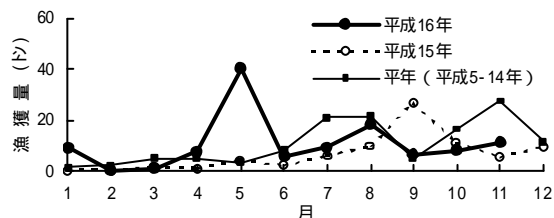


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成16年7～11月の総漁獲量は2927トンで、前年比102%、平年比117%（平成11年～平成15年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道は南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は847トンで、前年（806トン）及び近年（592トン、平成11年～平成15年の平均値）を上回りました。

和歌山県：串本および南部町漁協の棒受け網は7月を除き低調で、前年比49%、平年比36%（平成6年～平成15年）でした。また、熊野灘の定置網への入網もきわめて低調でした。

【漁況予測（平成17年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成16年生まれ)主体に期の後半は0才魚(平成17年生まれ)も漁獲される。

(2) 来遊水準：前年並から前年を上回ると考えられます。

説明：

ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年間で中位、動向は最近5年間で横ばい傾向にあると考えられています。今期前半の主対象となる平成16年生まれ群は紀伊水道の西（高知県含む）では多く出現しており、この魚が主体となって今期は前年並みから前年を上回る来遊となると考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成16年7月～平成16年11月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7漁協合計）による漁獲量は70トンで、前年比25%、平年比59%と低調でした。

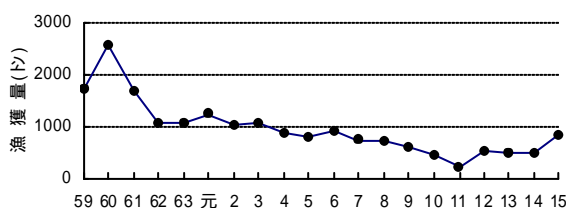


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

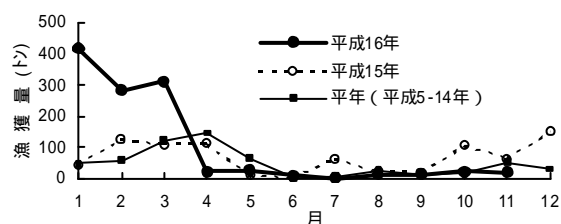


図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

2 周辺各県の経過

宮崎県：県内 8 漁協による平成 16 年 7 ～ 10 月の総漁獲量は 796 トンで、前年比 32%、平年（平成 11 年～平成 15 年）比 59%でした。

愛媛県：吉田町漁協による共販取扱量は 12 トンと前年（45 トン）及び近年（24 トン、平成 11 年～平成 15 年の平均値）を下回りました。

和歌山県：紀伊水道パッチ網は 86 トンで、前年比 53%、平年比 55%と低調でした。紀伊水道外域のパッチ網は 28 トンで、前年比 164%、平年比 74%でした。

【漁況予測（平成 17 年 4 ～ 6 月）】

(1) 漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ）

(2) 来遊水準：前年並から前年を上回る。

説明：

前年の春には黒潮が四国沖で著しく離岸し、それに伴いシラスの漁獲量が落ち込みました。今期はそのような黒潮の著しい離岸は生じないと予測されており、前年は上回る漁獲が期待されます。